

パートナーイベント

ヨコハマ・フットボール映画祭2025

ヨコハマ・フットボール映画祭

会 期：2025年10月11日（土）・12日（日）

会 場：横浜市港北区民文化センター ミズキーホール 音楽ルーム ギャラリー

主 催：（特非）横浜スポーツコミュニケーションズ／ヨコハマ・フットボール映画祭実行委員会

後 援：（公社）日本サッカー協会／Jリーグ／（一社）神奈川県サッカー協会／チェコ大使館／
チェコ文化センター／スペイン大使館／ドイツ連邦共和国大使館／
台北駐日経済文化代表処横浜分処／（一社）横浜港振興協会／港北区商店街連合会／
綱島商店街連合会／横浜市教育委員会

対 象：映画ファン、サッカーファン

公式サイト URL：http://yfff.org/yfff2025/



■開催内容

1. 上映プログラムと日本初公開作品

本映画祭では、サッカーを題材にした映画6作品の上映と、多角的に競技を楽しむ7つのトークプログラムを実施した。また、多様なサッカーアイテムを展示する「フットボールエキスポ」には5団体が出展した。

特筆すべきは、2つの日本初上映作品である。スペインリーグで活躍するアフリカ移民2世の兄弟のアイデンティティに迫る『ロス・ウィリアムス 〜イニャキとニコ〜』、そして台湾の少数民族の中学サッカー部の合宿生活に密着した『マイフットボール サマー 奇蹟の夏』を上映し、世界のサッカー文化の多様性を紹介した。

また、自閉症の少年と父が自分たちの推しチームを探す旅を描いた感動作『ぼくとパパ、約束の週末』**の上映では、本作のモデルとなったドイツ人父子とのオンラインQ&Aを敢行した。このセッションを通じ、サッカー界におけるインクルーシブ性の重要性について観客と共に理解を深める貴重な機会となった。

このほか、『ベップ・グアルディオラのFCバルセロナ』『スタディオ』『国際審判員 カルテットのレフェリング』など、競技の裏側に光を当てる作品群が観客の知的好奇心を大いに刺激した。

2. トークイベントと交流の場

トークイベントでは、フィリップ・トルシエ氏によるトークショーをはじめ、元日本代表の久保竜彦氏とお笑いコンビ・カカロニ、さらに審判と選手という豪華な顔合わせによるプログラムを展開した。

Vlogを発信するサポーターによる制作ノウハウの共有や、クラブスタッフによる運営の裏話、誰もが楽しめるサッカーの在り方を議論するプログラムなど、幅広いトピックが扱われた。また、昨年好評を博したYouTuberとファンの交流イベントも継続して実施し、コミュニティの活性化を図った。



3. フットボールエキスポと地域連携

展示エリアの「フットボールエキスポ」では、自作のサッカーモデルカーや書籍、テーブルフットボール、古着ユニフォームなどが並び、日常における多様なサッカーの楽しみ方が提示された。

さらに、2026年11月に神奈川で開催予定の「精神障がい者フットサル（ソーシャルフットボール）全国大会」に向け、有志による告知活動も行われた。映画祭という枠組みを超え、社会におけるサッカーの役割を再確認する場となった。



■2025年度の新規取り組みとその成果・特色など

今回より横浜市港北区民文化センター ミズキーホールに会場を移し、都心からのアクセス向上を図った。運営面では、港北区商店街連合会および綱島商店街連合会の後援を得るとともに、地元商店街からスタッフ用弁当の紹介を受けるなど、地域社会との緊密な連携を具現化した。

